

新春
号
2026

山口県立こころの医療センター広報誌

こころだより

特集

自閉スペクトラム症と情緒の問題について

病院の理念



県民の心の健康を支える

質の高い医療の提供



令和8年を迎えて

ファミリーサポートセミナー案内

令和7年度認知症疾患医療センター合同研修会

診療のご案内



編集：広報委員会
発行：山口県立こころの医療センター
山口県宇部市東岐波4004-2
TEL:0836-58-2370（代表）



地方独立行政法人
山口県立病院機構





特集

自閉スペクトラム症と情緒の問題について

むらた ゆき

思春期外来 村田 由紀

発達障害は自閉スペクトラム症、ADHD、学習障害など生来性の疾患です。最近では人口の10%程度存在すると考えられています。学習障害は小児科で診断されることが多いので、当院には前者2つの傾向のある方が受診されることが多いと思います。

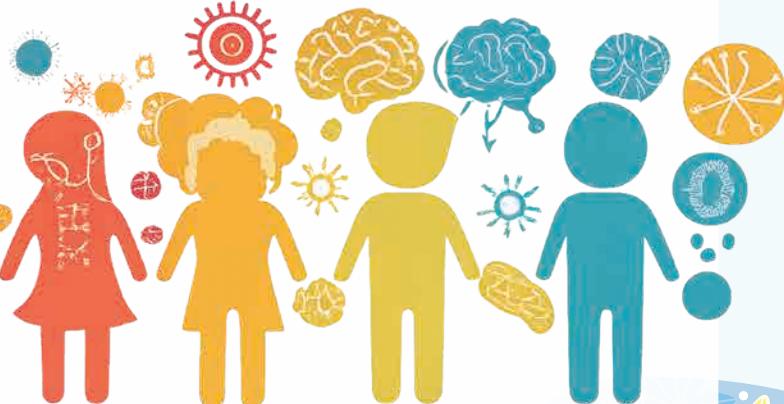
ローラ・ウイングは知的障害のない自閉スペクトラム症(アスペルガー障害)の特徴として社会性の障害、コミュニケーションの障害、想像力の障害を考え、タイプを積極奇異型、孤立型、受動型と3つに分けました。孤立型、積極奇異型はその行動特性から早期に診断されることが多いのですが、受け身型は単なるおとなしい子と思われ、思春期になって人間関係などで困難が生じて初めて受診になります。受動型の言葉の通り、誘われれば拒否することなく社会活動に参加しますが、基本的には同様に3つの困難を抱え、人間関係が難しい年代では不適応を呈することもあります。

他の疾患として受診されても、治療経過が一般とは違う場合には発達障害の視点は重要です。例えば難治性うつ病では双極性障害やパーソナリティ障害とともに発達障害の鑑別や合併を考える必要があります。その場合、薬物治療だけでなく、その特性に応じた援助が必要ということは広く知られています。

最近読んだ本(はじめてまなぶ自閉スペクトラム症:診断から実践へ 本田秀夫著 金剛出版)に発達障害の衝動性について書いてありました。私達が患者さんに発達障害の鑑別や合併を疑うケースは、その衝動性の激しさ、暴力性や自傷行為が目立ちますが、本田先生は、それは衝動性でなく感情易変性で、そもそも発達障害の症状には感情の問題はないといいます。ADHDの

診断となる衝動性とは相手が話し終える前に口を出す、順番が待てないなどの行動の問題であり、感情の問題(易変性)は発達障害の基本症状ではないと断言しています。

しかし実際の臨床で衝動性の問題、正確には情動コントロールの問題を抱えた多くの患者さんがおられます。それはなぜか。本田先生は、環境と本人の特性の不調和によるストレス反応だと説明しています。小児科臨床ではよく知られていますが、虐待によって生じる反応性愛着障害という病態があります。それらと自閉スペクトラム症やADHDの鑑別は困難です。そもそも発達障害であることは虐待やトラウマのリスクであり、愛着障害と発達障害の区別が困難であり、発達性トラウマという概念も生まれました。精神分析の分野でも自閉スペクトラム症とごく早期のトラウマを持つ患者の類似性を言い、いずれの場合もコミュニケーションの基本的な機能である投影性同一視や取入れ性同一視が働くないと説明しています。これらの機能があつて初めて生まれたての赤ん坊には情緒が生まれそれが思考に発展します。私達の心がどう発達するのか。それがうまくいかないという状態はどういうことなのか。発達障害の患者さんの心には多くの分からぬことがあります、治療によって学ぶことが多いと思います。





令和8年を迎えて



院長 かねゆき ひろし
兼行 浩史

令和7年の1年間、皆さまから頂いたご支援やご協力に、深く感謝申し上げます。毎年新年に向けてご挨拶の機会を頂いておりますが、改めて新たに迎える令和8年が、皆さまにとって、穏やかで有意義な1年となりますように心より願っております。

新年は、丙午(ひのえうま)となります。60年ぶりに巡ってきた干支の1つに過ぎませんが、江戸時代の八百屋お七に由来する迷信から、前回の丙午1966(昭和41)年には出生率が前年から25%も低下しました。還暦前後の我々世代には、迷信が及ぼした陰影が記憶に刻まれています。もっとも、その丙午年生まれの人々は、青年期の受験や就活では有利に働いたとされており、まさに万事塞翁が馬です。今どきでは、迷信よりも「都市伝説」、「SNSデマ拡散」などと姿を変えていますが、いつの時代にも風説が流布され、残念ながら風評被害が生じています。私たち個人には、広い視野から科学的根拠や倫理

観に基づいて思考し、他者の気持ちを踏まえて行動する胆力が求められています。干支の迷信を吹き飛ばして、むしろ深刻な出生率低下を挽回したいものです。新たな生命の誕生を心待ちにしつつ、子供たちが夢と希望を持って健やかに育つ社会の構築が大切な課題かと思います。それは、病気や障害を抱えた人々が暮らしやすい共生社会の実現にもつながります。

当院の理念は、「県民の心の健康を支える質の高い医療の提供」です。心の健康(メンタルヘルス)は、多様化する現代社会のさまざまな局面でますます重視されています。当院で働く職員は、心の病気を抱える方々の治療や支援に携わる専門職としての矜持を保って、当事者・ご家族と誠実に向き合い、安心・信頼・希望を高めるように関わらせて頂きたいと願っております。新年もどうぞよろしくお願ひ致します。

2025 こころの医療センター ❤ ファミリーサポートセミナー

場所：当院会議室
時間：各日15:00～16:30
対象者：当院に、入院または通院の患者様(統合失調症)のご家族
参加費：1,000円(初回参加時のみ、資料印刷代など)
申込方法：事前申込み制
※開催10日前までにお申し込みください

参加者の声

- 利用できる社会資源について知ることができた。
- 自分だけが悩んでいるんじゃないことがわかった。
- 家族以外に話せる人がいない。
(話せる場所があって良かった。)
- 緊張したけど話せたら少し気持ちが楽になった。
- 先生(医師)から直接アドバイスがもらえた。

実際の様子



○主治医や看護師、相談員などへお声かけいただくか、下記の問合せ先へ(参加者氏名、患者氏名、連絡先)ご連絡ください

ご家族の皆さまが正しい知識を知り、共に考え、励まし合える場をもつことで、無用な不安や心配から解き放たれ、より前向きに希望をもつて病気に立ち向かっていけるために

月日	内 容
12/5	「統合失調症の基本的知識」
1/9	「ご家族が抱える困りごと・問題解決技法を用いた考え方」
2/6	「ご本人への関わり方・コミュニケーション」
3/6	「ご家族のリカバリー」

お問い合わせ

山口県立こころの医療センター 奴田原・藤近
電話：0836-58-2370 FAX：0836-58-6503
Mail：Kokoro.daycare@ymghp.jp

令和7年度認知症疾患医療センター合同研修会

総合テーマ「これからの“新しい認知症観”とは」

日 時：令和8年2月8日(日) 13:00～15:30

形 式：WEB研修 (Zoomウェビナーによる配信)

対 象：認知症に関わる、かかりつけ医をはじめとする保健医療関係者、学生
地域包括支援センターや認知症高齢者援助機関等の介護・福祉関係者

講演 I 認知症診療で私が一番大切にしていること —診断後支援の視点をふまえて

【講師】メモリークリニック湘南、栄樹庵診療所、
東京慈恵会医科大学名誉教授、
東京都立大学名誉教授
繁田 雅弘 先生

講演 II 認知症の人の心を理解する ～心理的視点から認知症ケアを支える～

【講師】大阪大学名誉教授、
大阪府社会福祉事業団特別顧問
佐藤 真一 先生

主 催：山口県、県内各認知症疾患医療センター（いしい記念病院、柳井医療センター、泉原病院、
山口県立総合医療センター、山口県立こころの医療センター、下関病院、萩病院、三隅病院）

※参加をご希望の方は、QRコードもしくは
山口県立こころの医療センターホームページ
(<https://y-kokoro.jp>) からお申し込みください。
参加費は無料です。



■ お問い合わせ
山口県立こころの医療センター内
認知症疾患医療センター（米田・石原）
TEL: 0836-58-5950

診療のご案内

外来診察担当医						
初 診			再 診			
月	(物忘れ・高次脳) 兼 行	(一般) 角 田		藤 田	磯 村	(禁煙、第1・第3) 藤田・新造
火	(思春期) 村 田			坂 倉	加藤・能見	
水	(一般) 原 賀			兼 行	村 田	新 造
木	(依存症) 藤 田	(一般) 新 造		兼 行	角 田	原 賀
金	(一般) 坂 倉			藤 田	札 場	

※最新の情報は病院ホームページをご覧ください。

初診・再診とも予約制となっております。予めお電話でご予約されてご来院ください。

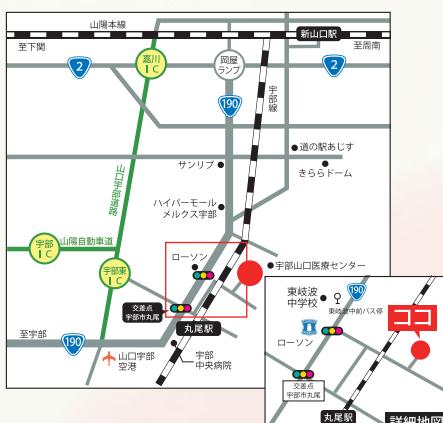
外来直通電話：0836-58-2327

もの忘れ外来は認知症疾患医療センター（0836-58-5950）、

高次脳機能外来は高次脳機能障害支援センター（0836-58-1218）にご連絡ください。



交通のご案内



お車/山口宇部道路「宇部東IC」より丸尾方面へ約5分
電車/JR宇部線「丸尾駅」より徒歩約15分
バス/宇部市営バス「東岐波中学校前」より徒歩10分

地方独立行政法人 山口県立病院機構
山口県立こころの医療センター

〒755-0241 山口県宇部市東岐波4004-2
TEL: 0836-58-2370 (代表)
: 0836-58-2327 (外来直通)
FAX: 0836-58-6503

こころの医療センター

検索

<https://www.y-kokoro.jp/>

